

米沢市認知症地域支援推進員通信 No.9 令和5年9月発行

おらだの声

発行者：米沢市認知症地域支援推進員
高齢福祉課地域包括支援担当 ☎22-5111

2023



世界アルツハイマー月間

毎年9月21日は「世界アルツハイマーデー」、9月は「世界アルツハイマー月間」です。

米沢市は、今年度「オレンジガーデニングプロジェクト」に参加しています。オレンジ色は認知症啓発のシンボルカラー。「認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで創っていきましょう!」という思いを共有し、楽しみながら花を育て、全国各地でオレンジ色の花を咲かせるプロジェクトです。認知症について考え、周囲の人と話したり、認知症の人と一緒に花を育てたり、人・地域・社会との繋がりをもち、認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで創っていきましょう。



認知症地域支援推進員がオレンジ色の花を植え、啓発活動を行っています。



市内在宅サービス事業所にもご協力いただき、オレンジ色の花を植えています。プロジェクト参加の様子は米沢市ホームページに随時掲載していきます。ぜひご覧いただき、認知症について考えるきっかけとなると幸いです。



認知症サポーターキャラバンのマスコット「ロバ隊長」

自宅で認知症のお母様の介護をしている西方 朗さんを紹介します！

西方さんとの出逢いは、「ケアセンターとこしえあたご」が主催する認知症カフェ『笑福かふえ～みんなワイワイ 和気アイアイ～』での、西方さんによる講話「認知症の方の家族の実体験」でした。もう少し詳しくお話を聞かせてほしい！と、こちら側の希望を快く引き受けてくださり、先日伺ってきた一部を皆さんに紹介します。

朗さん

お母様の美春さんと朗さん



教えて西方さん！



Q. 認知症が発覚したころのことを教えてください。

A. 令和2年に心不全で入院後に認知症が発覚しました。退院時には息子の顔を見ても「誰？」といった表情で見つめ話しかけても返事がありませんでした。後に、発語は見られるようになりましたが、時に大きな声を出すこともありましたが、全身入浴をさせてあげたいという家族の思いに反し「どこにも行きたくない」と頑なに拒んでいました。その時のケアマネジャーに紹介してもらった「とこしえあたご」に「行ってみたいよ。」と言い、「気に入った。また行きたい。」と笑顔で帰宅した本人をみて『縁』だと感じています。

Q. 再び発語があったきっかけは何ですか。

A. 関わってくださるみなさんが「おばちゃん！」「おばちゃん！〇〇だったよね？」とたくさん話しかけたり、本人に届くように声をかけたりしてくれたことだと思います、声かけは大事だなと感じています。

Q. 介護をされていて思うことがあれば教えてください。

A. 認知症専門医と早くつながりたかったな、と思います。専門医による治療を開始してからは声を上げることもなく、夜もぐっすり寝てくれるようになりました。自分の時間を持って地域の活動が行えています。また、畑仕事中でも母を確認できるように電気屋に相談して見守り用のカメラを購入しました。そしたら、福祉用具販売事業者にも相談できると後に知り、認知症のことや介護保険についてもう少し勉強していればよかったな、と思っています。不思議なことに関わっている多くの方々が昔から知り合いで気軽に話が出来、とてもスムーズに支援に結びついています。

西方さんのお話から、認知症に関する早期受診の大切さ、人とのつながりの大切さを学びました。口腔内吸引の方法を訪問看護師から指導をうけた西方さん。「吸引はまだ怖さはあるし、介護は時間に追われ大変なことも多いけれど関わっていただいているみなさんには大変感謝している。」と話し手際良く美春さんの口から吸引する姿は大変頼もしく見えました。美春さんに対する愛情が、多くの関係機関を結び合わせ、西方さん一家の生活を支えているのだなと改めて知ることができました。西方さん、ありがとうございました。

